



fig. 1 調査地周辺の地形と条坊（1/4000 小字名は橿原考古学研究所編『大和国条里復原図』による）

I 序 章

1. 調査の経緯

昭和60年10月9日、林住建株式会社は、橿原市高殿町字テンヤク537-1の土地4,000㎡について、分譲住宅建設に伴う発掘届を文化庁に提出した。奈良県教育委員会、橿原市教育委員会、奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部、および原因者等で協議を重ねた結果、調査は奈良県教育委員会が担当し、実際の発掘調査は、その委嘱を受けて、飛鳥藤原宮跡発掘調査部が実施することになった。

後述するように、申請地は、藤原京の構造の理解を左右する重要な地点であるため、十分な発掘調査が必要と判断された。しかし、調査部では、60年度の発掘計画が予定通り進行中で、さらに続々と提出される民家新築等に伴う発掘届にも随時対応していかねばならず、広範囲の発掘を必要とする今回の申請の取り扱いに苦慮した。幸い、申請者の理解が得られ、調査は昭和61年4月から7月までの期間、これを実施する運びとなった。

2. 調査位置

調査地は、藤原宮大極殿から東北へ600m、藤原宮の北面東門から北へ200mの位置にある。調査地のすぐ南には国鉄桜井線が走り、北へ130mで、国道165号線に至る。付近一帯は、東南から西北へ向かって、緩やかに傾斜する地形であり、調査地の北350mで、大和の古道「横大路」に至り、「横大路」に沿って米川が東から西へと流れている。

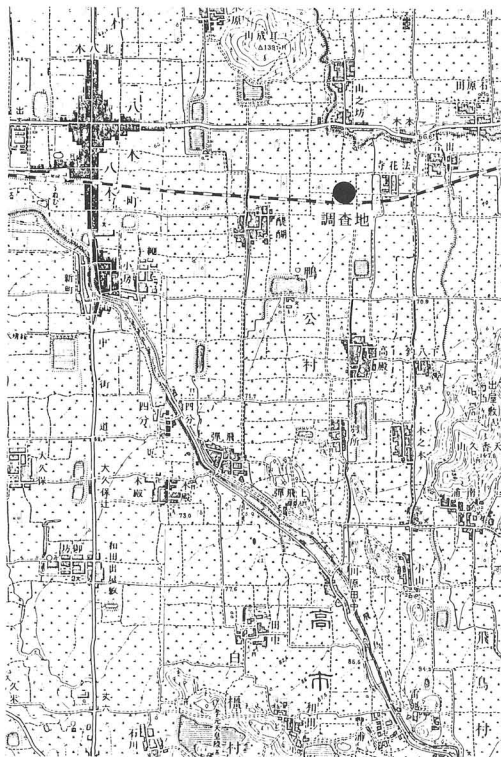


fig. 2 調査地位置図(1/40000)

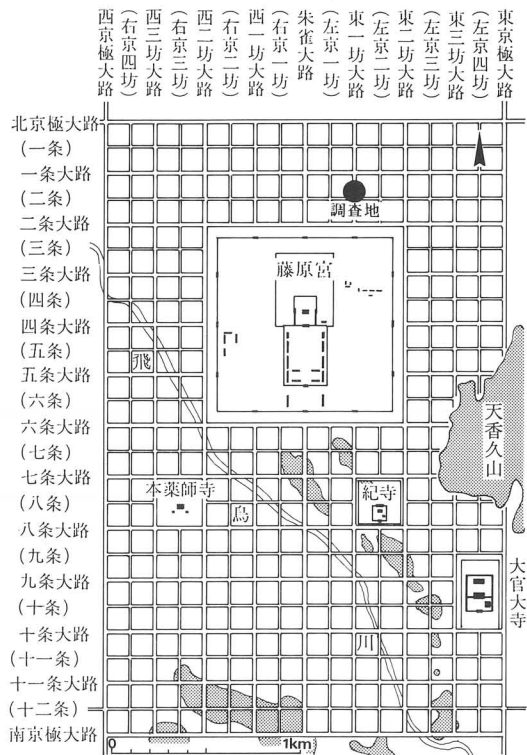


fig. 3 藤原京条坊模式図(1/40000)

国道165号線に沿う一帯は、近年開発が進行し、調査地にも、すでに宅地造成の盛土がなされていた。盛土以前の地形は、条里で区画された水田であって、大和国条里の呼称でいえば、調査地は高市郡路東条里24条2里31坪の北半を占め、昭和30年代作成の地形図によれば、北および西に段々に低くなる5筆の水田であった。旧水田面の標高は67.4mから67.7mである。

岸俊男氏による藤原京の条坊復原説によれば、この場所は、藤原京左京二条一坊東北坪と、同二坊西北坪とにまたがり、申請地の中央部を東一坊大路が南北に通ると推定されている。奈良国立文化財研究所が用いている藤原京の地区表示では、6AJP-E地区に含まれる。

さて、今回の調査地を含む条里の31坪は、小字名を「テンヤク（天薬）」という。一坪あけた北にあたる33坪にも別に「テンヤク（天役）」の小字名が遺存している。これらの「テンヤク」の地名については、昭和41年～43年に行なわれた国道165号線バイパス計画に伴う奈良県教育委員会による発掘調査¹によって、「典薬寮」関係の木簡が出土して以来、藤原宮の「典薬寮」との関連が注目されてきたところである。

典薬寮関係の木簡群は、今回の調査地の西南方230m、藤原宮の内裏東大溝SD105が北面大垣の下をぬけて、北外濠にまさに流入しようとする、そのわずかに上流から集中して出土したものである。木簡には、「典薬」の文字の読み取れるもの、薬物の付札、薬湯の処方を書いたものなどが多数あり、それらが一括投棄されていたことから、木簡出土地の付近に、典薬寮関係の施設の存在が想定されたのである。岸俊男・和田萃氏は、これら典薬寮関係木簡の出土地点と、「テンヤク」の小字名の遺存との関連に注目して、今回の調査地を含む藤原宮北方の2条分に、典薬寮関係の薬園等の施設、あるいは「上池」「下金池」などの小字名の遺存から苑池の存在を考え、この部分は宮の付属地であったと推定したのである。そして、中国の洛陽城や長安城の場合も、同じ部分が苑池となっていることを例示して、藤原京の構造と中国の都城の構造との関連に注目したのである。

藤原宮の北方にあたる部分については、これまで11回にわたって発掘調査を行なってきたが、いずれも発掘面積が狭く、岸・和田説の当否を検討できるような成果は得られていない。それだけに、「テンヤク」の字名をもつ地点の調査によって、藤原宮北方の利用状況について、重要な示唆が得られるものと、発掘調査の成果を大いに期待したのである。

1. 奈良県教育委員会『藤原宮』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第25冊 1969年3月

調査日誌抄

4月7日（晴）東区設定、重機による盛土排除開始	6月19日（晴）補足調査・土層図作成
4月18日（曇）機材搬入	6月25日（曇）東区調査終了
5月1日（晴）北排水溝より和同開珎銀銭3枚出土 SD5111の砂層にあたることを確認	6月28日（曇）重機により東区埋め戻し
5月7日（晴）小型重機による床土排除、地区杭打ち	6月30日（曇）西区設定、重機による盛土排除開始
5月12日（晴）南側から遺構検出開始、小溝多数	7月3日（曇）遺構検出開始、地区杭打ち
5月26日（曇）折り返し北から精査開始	7月14日（晴）北側から精査開始
6月9日（晴）東区検出終了、空中撮影標定点設定	7月24日（晴）地上写真、遣り方設定
6月10日（晴）空中撮影、引続き地上写真撮影	7月25日（晴）空中撮影、平面実測開始（～29日）
6月11日（晴）遣り方設定	7月28日（晴）南拡張区地上写真、北拡張区検出
6月12日（晴）平面実測開始（～18日）	7月30日（晴）北拡張区地上写真、補足調査開始
	8月1日（晴）土層図作成、調査終了